

A. 全員での評価軸

日陰の適度さ

- ・暗い。常緑広葉樹ばかり。
- ・暗い。見学して回った時、他に比べて暗いという印象を受けた。
- ・一概には暗いとは言えない。公園の使用者は数理棟の人がメインになるだろうが、その人たちにとって暗いかどうかは自分たちの立場からは断定できない。
- ・暗い。低い木が多い。
- ・暗いが明るい場所もある。ギャップの有無で、公園内でもかなり明るさに差がある。
- ・適度。夏は避暑をするのに適切な量な日陰である。

植え方の適切さ

- ・適切。木の本数は多いけど、木の間隔は十分に取られている。
- ・許容範囲。密度は少し高いかもしれないが、公園としてはいい。
- ・適切。自然に近い状態。舗装も少ない。
- ・適切。枝打ちが少ない。
- ・適切。休むのに心地が良い密度で植えられている。

場に対する景観のふさわしさ

- ・ふさわしい。近くのコミュプラと対比されている感じが素敵。
- ・断言できない。静かで落ち着くという目的で公園を使用するなら景観は適切である。ただ、わいわい騒ぐには不適切な景観と言えそうである。
- ・ふさわしい。リフレッシュする場所として適切。整いすぎた都会のようでなくて休みやすい。
- ・ふさわしい。図書館にいる人が窓から公園を見えるが、目の休憩になってよい。

生物種の豊富さ

- ・豊富。木の種類が多い。
- ・豊富。舗装が少なくて土が多い。
- ・少ない。常緑樹ばかりで落葉樹が少ないので、落葉樹に生息する動物は生息しないと推測される。
- ・少ない。鳥はカラスかコウモリしか見たことがない。
- ・少ない。影が多くて光が届かないので少なくなりそう。
- ・豊富。ギャップがあると生物種が豊富になると伺った。

体感温度の快適さ

- ・季節による。夏は涼しいけど冬は寒い。
- ・快適。樹木の密度が低いので冬は暖かくていい。

B. グループでの評価軸

美観・季節感

- ・比較的感じにくい。落葉樹で四季の変化を感じるが、少し常緑樹が多い。
- ・感じにくい。花が少なくて感じにくい。

親近感

- ・人が少ない。
- ・蚊等が多くて近寄りたくない。
- ・暗くて陰気なイメージがする。
- ・雰囲気有近寄りがたい。
- ・需要が少なそう。
- ・有効活用されていない印象を受ける。
- ・数棟棟の人が憩いの場として利用していそう。

サウンドスケープ

- ・静かでよい。
- ・風の音が聞こえて自然を感じられてよい。
- ・電車の音が聞こえる。
- ・テンションが上がるような音はしない。
- ・人の話し声は少ない。

影の薄さ

- ・知名度が低い。
- ・公園として認識されていない。
- ・単なる空間で活用されていない。
- ・いったことない人が多い。

C.個人的意見

- ・香り：そもそも香りがしない。(悪くはない)

D.エリアをもっと素敵にする方法

- ・生物多様性を保持するためギャップを維持する。
- ・近づきやすくするために該当を増やして明るくする。
- ・夏にすごしやすくするためにかを駆除する。
- ・季節感を出すために落葉樹を植える。
- ・カラス以外の鳥を増やすため巣箱をつける。
- ・明るい雰囲気づくりをするために下草を植える。
- ・ベンチに座る以外のすることを作るために開けた場所や芝生エリアを作る。